

令和2年度広島県教育奨励賞受賞の状況

個人（学校教育）

名前	所属職名	功績等
山田 賀子	福山市立南小学校 教諭	教務主任として「単元の学びの本質は何か」を問うことで「子ども主体の学び」を深める研究を中心となって推進した。特に学びの本質に向かうために、単元の導入を大事にした授業を実践することで、児童が単元で学ぶ内容や疑問点等を交流して明らかにするとともに、その後の学びにおいても児童の主体的に取り組む姿が見られる等の成果を上げた。
渡邊 博之	福山市立松永中学校 教諭	研究主任及び道德教育推進教師として、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを国語や道德などの授業実践、校内研修の企画・運営などにより牽引しており、組織的な学校運営において中心的な役割を果たした。

団体（学校教育）

団体名	功績等
福山市立千年小学校 校長 岸本 千香子	教科・学年の枠を超えた教育課程を編成し、児童が自分で「決める・選ぶ・考える」場を設定するなど、「子ども主体の学び」づくりを行っている。また、家庭学習の在り方を見直し、児童が自分に合ったやり方を選び、決めることができるよう改善を続けている。これまでの通知表による評価を見直し、自校作成のテストによる評価を行ったり、学習の過程が分かる個人のポートフォリオにまとめたりしている。
福山市立城東中学校 校長 羽原 靖明	平成30年度から、生徒の新たな居場所として、「きらりルーム」を設置し、令和元年度からは、経済産業省の「未来の教室モデル校実証事業」の指定を受け、生徒一人一人の多様な学びを実現する場所となるように実践を行っている。企業が開発した「答えのない問いを協働的に解決する学習プログラム（探究学習プログラム）」を総合的な学習の時間に導入したり、EdTechやICT機器の活用を進めたりして、個に応じた学習に積極的に挑戦している。